
非常識なカップラーメン

連

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

非常識なカップラーメン

【Nコード】

N3457T

【作者名】

連

【あらすじ】

カップラーメンを作る時の禁止事項ってなんだと思います？やっぱりこででしょ。で、それをやったら罰が下るんです。

あの、ほら。なんていうのかな。そうそう、こんなふうに言うのかな。

人生には魔が差すつてことがあるじゃないですか。少年時代に万引きしちゃったり。親の財布からお金盗んじったり。そういうことがあるわけですよ。

で、実はそれはまだいいほうなんです。なぜかというと、結果が出るから。

「怒られる」という結果に辿り着くわけです。ちゃんと『実』がなるわけです。

でもそうじゃない場合がある。魔が差した結果、全く何も起こらなかった場合もある。そういう時は非常に空しいわけなんですよ。

分かってもらえるかな。今、「うんうん、あるよね、そういうこと」って言うてる人、何人いるのかな。

え？それより、早く先に進めつて？分かってますつて。いえ、充分分かってるんです。でも進みたくない理由が明白にある。

結果からいうと失敗してしまっただんですね。何を失敗したかって？それは今から洪々説明します。

あのですね。演芸場に手品を見に行きますよね。で、「さあ、どうなるかなどうなるかな」って思わせといて、どうにもならなかった場合を想像してくださいね。鳩出てこなかった場合も文句言わないでくださいね。

実験には失敗がつきものです。ではいつてみましょう。『非常識なカップラーメン』のはじまりはじまり。

まずここでは進化について語らなくてはいけません。人間つて進化しますよね。なぜか。

それは飽きるからです。何かをずっと続けていて、ふと「なんか同じだな」って思ってしまうんですね。それで「別のことやってみ

ようかな」って思ってしまったんです。それが進化です。

人間は人間になる前は四足歩行だった。でもそれに飽きちゃった。だからなんか「じゃあ二足歩行でいこうか」なんて誰かれともなく言い出して、今の人間になったんですね。

今から書くことは人間の進化なんです。人間が一步進んだ事件なんです。それを語ろうと思います。

皆さん、カップラーメン食べますか？食べますね。はい、そういうことにしましょう。

「食べませんわ、そんなお下品なモノ」

とおっしゃるお上品な方はちょっと後ろのほうへ下がっててください。今から話すのは普通の、いわゆる一般市民のレベルのお話です。

カップラーメンを食べようとする時、まず何をしますか。

そう。お湯を沸かしますよね。で、その間にラーメンを覆っているあの透明のビニールをピリピリと苦労して破りますよね。

でもちよっと待ってください。今、あなた、どこまでいきました？え？もう、破るとこまで？そこまでいつてしまったんですか？

えーっとですね。大変申し上げにくいのですが、私はそこまできなかつた人間なんです。つまり、その『いつもの常識』に疑問を感じてしまった人間なんです。

ではどうしたか。ビデオをちよっと巻き戻してみてください。あ、最初のところへいききましたね。

そう、最初あなたどうしました？お湯を沸かしましたね。

ここです。ここで魔が差したんです。

つまり私はカップラーメンにお湯ではなく、水を入れるという実験をしてしまったんです。

はい、苦情来た！「つまらないことすんな」って苦情来た！「そんなもんで長引かせんな」って来た！

はい、よけるよける！投げられたボールをよけながら先へ進みますよう。

思ってしまったんですよ。

「水……入れたらどうなるんだろう？」

って。で、カップラーメンのビニールをピリピリと破いた私はヤカンに入っている『水』をラーメンに注ぎます。そしてセツトしていたタイマーをスイッチオン。

はつきり言います。はつきり言って、どうなるかドキドキもಂಡした。ヒヤヒヤもಂಡした。まず、普通は湯気でフタがめくり上がりますよね。それがなかった。だから余計にハラハラした。

「どうにもならないんじゃないか」

それが何度も何度も頭を巡りました。三分が早かった。

「え、もう二分五十秒？まだ全然変化がないんじゃないの？」

と内心焦りに焦りました。そして試合終了のゴングが鳴り響きました。あとは判定待ちです。私は無反応のフタを恐る恐る開けてみました。するとそこには……。

ありました。水に漬かったラーメンが……。全く変化してなかったラーメンが……。

一応、箸でつついてみたんです。そこは期待した。でもカッチカチだった。うんともすんともだった。

なんていうんですかねえ。ほら。旦那さんがね？いつも仲がいい夫婦の旦那さんのほうが調子に乗っちゃって、

「たまにはこんなノリもいいんじゃないか？」

って妻に普段言わないジョークなんかをぼろりと言ってしまうわけですよ。そしたら妻は、普段は笑顔の妻がその日に限って目線すら合わせてくれなかったっていうこと、男の方なら経験したことがあるんじゃないませんか？

男の人は基本優しいし、女の人に楽しんでもらおうと努力するからちよつとした工夫をしてしまうんですね。

魔が差すんですね。それは本当に恐ろしい魔なんですネ。

で、どうするつもりなんだ。これをどうしてくれるつもりなんだとおっしゃる厳しい方々。

食べました。食べましたとも。その水ライメンを。なんか文句あるか！これで納得しただろう！

私は今回のことで『水と油』ならぬ、『水とカップライメン』という言葉を思いつきました。

魔が差す。それ自体は、まだいいことなんです。問題は結果なんです。

（後書き）

読んでいただいております、こんなもんを。

うーん、やっぱりやりたくなってしまうんですよね、こつこつとを。

やっちゃダメなんですよね、タブーはね。

でも誘われるんですよね、ラーメンに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3457t/>

非常識なカップラーメン

2011年5月17日19時40分発行